



地元力財団

あなたの「ほっとけない」が見つかる これからの社会貢献 100

地元をよくするために、私たちは何をすべきなのでしょう。地元をよくするために何かしたいけど何をすれば良いのか分からないというあなたに向けて、あなたの地元、ここ和歌山の地域課題をデータを用いて見える化していきます。毎回異なるテーマ（分野）を取り上げ、地元の課題を端的に表すデータをご紹介します。

何が課題？数字でみる和歌山県 Theme11 子どもの生活環境を良くするためにできること



fun-fun で取り組まれている活動から、親子でエコバッグづくり。このような体験は家庭ではなかなかできませんよね。

子どもの生活を支える環境づくり
以前この紙面にて、全国学力テストの結果から、和歌山県で暮らす子どもの生活環境について考えたことがありましたが、その際、家庭での学習時間が多いほど学力テストの正答率を引き上げる影響を与えていることがうかがえることから、子どもたちが家庭で勉強や読書をして過ごす時間を長くすること、そして子どもたちが規則正しい生活ができるようにすることが必要だと結論づけました。
また、和歌山県下で虐待に関する相談件数が増加していることの原因として、核家族化、近所付き合いの不足というライフスタイルの変化によって、子育てをしている母親が地域で孤立してしまうことを指摘しました。

このように2つの観点から、子どもたちの生活環境を良くしていくためには、子育ては親だけの責任ではなく、地域社会に住むすべての大人の責任だということ意識を持つことが必要だと訴えました。では、地域社会で暮らす大人が子育てに関わっていくにはどのような方法があるのでしょうか。

子育て支援団体を応援する

誰もがまず関わりやすい方法のひとつとして、子育て支援をしている団体を応援することが挙げられます。例えば地元力財団の事業指定助成プログラム第2期に採択されている「特定非営利活動法人 fun-fun」は、岩出市で子育て支援を行っている団体です。岩出市は県外から嫁ぎ、近隣に親類や友人



たくさんの親子が参加することで、子育てへの不安感を軽減させ、勇気づける効果も期待できます。

「ママが笑顔の家庭は子どもも楽しく過ごせる」と考え、fun-fun は問題を抱え込んでしまうママとつながり、向き合うことで一人でも多くのママを元気にし、結果として子どもたちが笑顔で健やかに暮らせる地域を目指しています。

直接と間接参加で支援が可能

このような活動を行っている fun-fun では、さらにママたちのつながりを作っていくために5月16日

（土）に岩出市の県立緑花センターで「ふぁんふぁん青空フェスタ」を開催することにしました。手作りアクセサリーのワークショップや、出展ブースがあり誰でも楽しめる内容が予定されています。みなさんの参加が、子育てに不安を抱えているママを助けます。そしてもうひとつ、イベントの開催費用を寄付することも立派な参加の手段です。少しでもよいプログラムを提供しようと奮闘されている fun-fun を元気づけ、それがひいてはイベントに参加するみなさんを支えます。

Editor's Voice

地元力財団では「地元に対する想いを寄付に託す」という新しい寄付の「カタチ」を提案しています。寄付はもちろん、明日からできる「あなたらしい」社会貢献のカタチを紙面で紹介してきました。当財団では「社会貢献支援相談窓口」を開設し、個人や団体、企業のみならずの地元に対する想いをカタチにしていくお手伝いをしたいと考えています。

また、昨今の社会貢献意識の高まりを受け、遺産を地元のために活かしてほしいという声やニーズはますます高まっています。地元の課題が多種多様になるなか、それらの声に応える新しい仕組みが求められています。

公益財団法人わかやま地元力応援基金では、「遺産を地元のために提供したい、寄付したい、活用してほしい」という想いと、大切な遺産を地元の市民公益活動団体へつなぎ、活用していくための相談を受け付けています。

お問い合わせ先

公益財団法人わかやま地元力応援基金「これからの社会貢献 100」係（担当：酒井）
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-428-0011 FAX 073-428-0012
E-mail info@jimotofund.jp

NPO 紙上講座 (3) NPO 「法人」は信頼の証なの？！

前回の紙上講座では「NPO 法人になったからといってすぐに財政的な支援が得られるわけでも、社会的信頼を得られるわけでもない」ということを取り上げました。しかし、今でも「NPO 法人を設立すれば、すぐに助成金や補助金が獲得できる」と誤解をされている方が大勢いらっしゃいます。

もちろん、全国には NPO やボランティア団体を対象とした様々な助成制度や補助金事業が存在します。なかには NPO 法人でない応募できない事業もあります。ただ、助成金や補助金など、企業や財団、それに行政等からの資金的支援は、団体の運営を直接支援するのではなく、**団体が運営する事業に対して支援するものがほとんど**です。したがって、団体を設立したからといって無条件に財政的支援がなされるわけでもありませんし、また、法人格がなくなると応募できる助成金・補助金事業もたくさんあります。

助成制度や補助制度は、事業を応援する仕組みですので、助成金や補助金を支給する団体や行政機関が「この事業は応援したい！」と思えるような事業を企画・提案すると共に、そうした資金を受け入れる体制が整っていない限りはなりません。多くの助成・補助金制度は事業報告・会計報告が求められます。そうした事務作業をきちんとこなす組織力を有しているかも大事なことなのです。その際には NPO が法人格を持っているかどうかはほとんど関係ありません。

また、NPO 法人になるとすぐに信頼を獲得できる、と

考えておられる方も少なくありません。

これもよく誤解されているのですが、NPO 法人は「認可」ではなく「認証」という手続きで設立に至ります。「認可」であれば、行政が一定の審査を経て法人設立を許可する、というような趣旨になりますが、「認証」は、法律や条例に基づいた書類が作成されているかを審査し、**問題がなければ基本的に法人設立が認められる**、というゆるやかな仕組みで、**行政のお墨付きが与えられるものではありません**。

では、NPO 法人はどうやって信頼を得ていくのか、といいますと、NPO 法人は地域住民のためになる公益活動を積極的にこなすこと、団体の基本情報を積極的に公開することによって、**自らが地域から信頼を得ていく**、というのが法律上の趣旨となっています。つまり、NPO 法人はそのまま自動的に信頼を得られるのではない、ということになります。

NPO 法人は事業年度が終わってから 3ヶ月以内に、所轄庁に事業報告や財務諸表など所定の書類を提出することが義務付けられており、和歌山県庁県民生活課もしくは和歌山県 NPO サポートセンター（和歌山ビッグ愛 9階）で所定の手続きをすればどなたでも無料でご覧いただけます。

また、全国約 5 万ある NPO 法人の定款や事業内容、財務情報は内閣府 NPO ポータルサイト (<https://www.npo-homepage.go.jp/portalsite.html>) にて公開されています。NPO 法人はどんな業務をどんな財政規模で運営しているのか、ご覧いただけます。

みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- 第8回田辺市市民活動まつり
田辺市内の NPO・ボランティア団体を中心に多数の団体が一堂に会します。
日時 3月1日(日) 10:00～16:00
場所 田辺市扇ヶ浜カッパーク
参加費 無料
内容 各団体の出店・展示、ステージパフォーマンス、県内十数体のゆるキャラ大集合、心のコンサートほか。
問い合わせ 市民活動まつり実行委員会 (0739-26-9833・田辺市市民活動センター)
備考 雨天時は中止。
- 歴史から学ぶ防災
日高地域の災害の記録を学び、いまできることを考えます。
日時 3月1日(日) 13:30～15:30
場所 御坊市中央公民館大会議室
内容 日高地域の歴史を研究されている5名から伝承や遺跡などから日高地域の災害の歴史を振り返る事例報告。その後参加者でワークショップ。
参加費 無料
問い合わせ 和歌山県立博物館 (073-436-8670)
- 発達障害についての講演会
発達障害の子どもの心理・行動特性について理解するとともに、支援の方策を探ります。
日時 3月3日(火) 13:30～16:30
場所 有田振興局3階大会議室
内容 和歌山大学大学院教育学研究科教授・武田鉄郎さん
参加費 無料(事前申込み必要)
定員 50名
申込み締切 2月27日
申込み・問い合わせ 和歌山県難病・子ども保健相談支援センター (073-445-0520・県立医科大学内)
- 春を彩るチョコレートアート
黒板に鮮やかな絵や文字を描くチョコレートアート。絵が苦手な人も塗り絵感覚で楽しめます。
日時 3月1日(日) 13:00～
場所 みんなの学校(ぶらくり丁商店街)
講師 日本チョコレートアート認定講師・藪上陽子さん
定員 10名
対象 中学生以上
参加費 1,000円(事前申込み必要)
問い合わせ・申込み みんなの学校 (073-460-2028)
備考 鉛筆削りをご持参下さい